

ボブスレー・リュージュパーク の在り方の検討について

長野市文化スポーツ振興部
スポーツ課

<施設概要>

- ・竣工 平成8年3月31日
- ・供用 平成8年12月1日
- ・総事業費 約101億円(工事費95億円、用地費6億円)
(建設負担割合…国1/2 県1/4 市1/4)
(国庫補助31.7億円、起債償還済み)
- ・敷地面積 18万㎡
- ・コース延長 1,700m

<平成26年度包括外部監査(公共施設の有効活用と管理について)>

- ・方向性に関する意見(抜粋)

「今後老朽化も進み、維持更新費用が発生することから長野市の負担において当該施設を維持していくことは困難と判断される。(中略)市民に利用されていない施設を市民の税金により負担することは特に考慮すべき事項である。(中略)施設を今後も継続するケース、完全に廃止・取壊しするケース、廃止するケース、一時的に休止するケース等の選択肢の中、補助金返還も含めた市の負担がどうなるのかのシミュレーションを早急を実施し、方向性の検討をすべきである。」

<長野市公共施設マネジメント指針>

「利用者が極端に少なく、維持管理費も多額であり、また、現在のNTCの指定期間が2018年韓国平昌冬季五輪までとされている。その後の対応等、施設の在り方について早急に検討する。」

(1) 維持管理費

- ・年間 約2.2億円(管理運営費2億円、改修費0.2億円)
⇒国からNTCの強化事業委託料として約1億円の収入
(NTC指定はH29年度まで、次の4年間の指定はH30年度に募集あり)

(2) 老朽化

- ・建設から20年が経過し、老朽箇所改修や設備更新などが必要
(木製バリア、冷凍設備、照明、電光表示、タイミングシステム、擁壁など)
⇒国からの支援なし

(3) 競技面

- ・競技人口は全国で130人～150人
- ・施設利用(H26年度、延べ人数):選手3,174名、見学等3,299人、計6,473人
- ・平昌に常設の施設が完成

(4) その他

- ・国からは、国が施設を運営する考えはないとの返答

3 ケース別シミュレーション(H30年度以降)

4

| 案 | 形態 | 内 容 | 市負担(10年) | ※NTCの収入 を見込む場合 |
|---|------|---|----------|-------------------|
| | | | 市負担(20年) | |
| 1 | 継 続 | ・現状どおり継続 (管理運営及び施設改修等) | 約31.2億円 | ※約21.3億円 |
| | | | 約55.9億円 | ※約36.1億円 |
| 2 | 一部休止 | ・製氷を休止(夏期トレーニング可) ・アンモニア等は撤去 ・再整備により再開は可能 | 約 1.9億円 | / |
| | | | 約 3.0億円 | |
| 3 | 全面休止 | ・施設を全面的に休止 ・アンモニア等は撤去 ・再整備により再開は可能 | 約 0.8億円 | |
| | | | 約 0.8億円 | |
| 4 | 廃 止 | ・施設を解体 | 約13.5億円 | |
| | | | 約13.5億円 | |

その他の可能性

| | | | | |
|---|------|--------------------|---------------------|---|
| 5 | 転 用 | ・メモリアル公園、市民の森に転用 | 管理形態により 上記2~4と同様 | / |
| 6 | 無償貸付 | ・競技団体に貸付(夏期トレーニング) | 上記3と同様 | |

◆建設時の国の補助金は、法の運用緩和によりいずれも返還不要(4~6は手続必要)

- 2018年平昌五輪までNTC競技別強化拠点として活用
- その後の在り方について検討

◎公共施設適正化検討委員会に、施設の今後の在り方について意見を聞く
◎随時、市議会、競技団体、地元など関係者の意見を聞く



◎今後の市のスポーツ振興の方向性を考慮
◎地元の活性化を考慮



◎今年度末～次年度の早いうちに方向性を決定